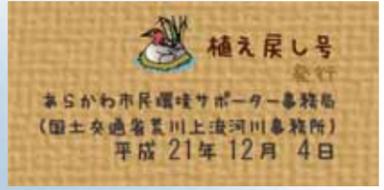


# ハンノキ通信



## ハンノキプロジェクト参加校におじゃましました

埼玉県も 12 月になり、ぐっと冷え込んできました。

学校で育てているハンノキも、葉っぱが緑から茶色に、そして一つ一つ枝から落ちはじめています。

大きくなった 2 年目のハンノキは、12 月に三ツ又沼ピオトープに植えもどします。

ここでは、この秋の学校の子どもたちの取り組み、環境サポーターが学校へ訪問したときの様子をご紹介します。



太平中学校のハンノキ



コブナグサ(左)とそれを用いた草木染(右)

太平中学校では、サブ環境サポーターの安孫子さんが、三ツ又沼で見られるようになったカモたちについて「なぜ北の国から日本に渡ってくるの?」「どうしてそんな距離を飛べるの?」といった子どもたちの疑問に応えました。

環境サポーターの菅間さんは、アカネやコブナグサといった植物を使った「草木染め」の仕組みについて、科学的にお話ししました。

出丸小学校では、サブ環境サポーターの伏黒さんと甘浦さんが、荒川の自然と移りゆく季節をテーマに、冬になり姿が見られるようになったカモや、たくさん地面に落ちているどんぐりについて紹介しました。

どんぐりは実際に割って中を観察したり、「どんぐりふえ」をつくりみんなで吹いたりしました。

三ツ又沼ピオトープを訪れた時に、今度は自分たちでカモやどんぐりを探してみましょう。



どんぐり(サヌギ)



出丸小学校では 11 月 7 日(土) 日ごろの子どもたちの学習の成果を親や地域の人々に紹介する「あかめまつり」がひらかれました。

授業で取り組んできたテーマ「守ろう!川島の緑と水」について、身近な自然や野生の生きもののこと、三ツ又沼ピオトープのこと、長年取り組んできている荒川ハンノキプロジェクトのことなどについて、展示物を作り、紹介しました。

## 晩秋の三ツ又沼ピオトープへようこそ

三ツ又沼ピオトープでも、植物はだんだんと緑から赤、茶色と色を変え、園路に積もる落ち葉の量も日ごとに多くなっています。

しかし、生きものが全くいなくなったわけではありません。

寒い北風の吹く三ツ又沼ピオトープに、たくましく生きる生き物たちを見に行きましょう。



冬枯れした三ツ又沼ピオトープでは、ツルウメモドキの赤い実がよく目立ちます。

これを食べに来る鳥たちも、多く見られるようになってきました。

冬眠まであと少しのナナホシテントウが、セイタカアワダチソウにつくアブラムシをむしゃむしゃと食べています。



沼の脇の草はらから顔を出したのは、なかなか人前にすがたを見せないニホンイタチ。

じっとこちらを見つめた後に、エサを探しにしげみの中へかくれてしまいました。